

事業名	鳥獣保護費			調査番号	61
細事業名	ガン・カモ科鳥類調査事業費	財務コード	009103		
担当部課室	森林環境 部	みどり自然 課	自然保護 担当 (内線)	6508	

## I 事業の概要

実施期間	始期 S44 年度 ~ 終期 年度						
実施主体	県(委託)						
目的	<table border="1"> <tr> <td>だれ(何)を対象に</td> <td>その対象をどのような状態にして</td> <td>結果、何に結びつけるのか</td> </tr> <tr> <td>ガン・カモ等の鳥類</td> <td>飛来状況が継続的に把握され、5年に1度改定する鳥獣保護管理計画において保護対策が立てられる状態になっている</td> <td>野生鳥類(ガン・カモ科類)の保護</td> </tr> </table>	だれ(何)を対象に	その対象をどのような状態にして	結果、何に結びつけるのか	ガン・カモ等の鳥類	飛来状況が継続的に把握され、5年に1度改定する鳥獣保護管理計画において保護対策が立てられる状態になっている	野生鳥類(ガン・カモ科類)の保護
だれ(何)を対象に	その対象をどのような状態にして	結果、何に結びつけるのか					
ガン・カモ等の鳥類	飛来状況が継続的に把握され、5年に1度改定する鳥獣保護管理計画において保護対策が立てられる状態になっている	野生鳥類(ガン・カモ科類)の保護					
内容	<p>本県の河川や湖沼は渡り鳥の主要な中継地となっていることから、その生息環境の指標となるガン及びカモ科鳥類の渡来状況を調査し、保護対策の資料とする。</p> <p>(1) 調査方法～調査地域内を歩行しながら確認できたガン及びカモ科鳥類すべてを種類別に記録するロードサイドカウントにより実施</p> <p>(2) 対象地域～富士五湖、もしくは富士川水系、笛吹川水系、濁川水系、荒川水系、相模川水系の主要河川</p> <p>(3) 委託先 ～やまなし野鳥の会</p>						

## II 事業の目標、実施状況等(事業実績及び成果の達成状況)

区分	指標	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31(R1)年度	R2年度
活動指標	調査員(延べ人数)	目標	70	70	70	70	70	70
		実績(見込)	70	70	70	70	70	70
		達成率	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
		達成区分	b	b	b	b	b	b
成果指標	確認種類数	目標	23	23	23	23	23	23
		実績(見込)	23	23	23	23	23	23
		達成率	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
		達成区分	b	b	b	b	b	b
決算(予算) 単位:千円		378	378	378	378	378	385	385

## III 事業の評価(平成30年度の業績評価)

活動指標	b	評価	ガン・カモ科鳥類の飛来状況データが安定的・継続的に蓄積されている。
成果指標	b		

・「活動指標、成果指標の達成率」から事業の活動量、成果に係る一次評価の考え方を記載すること。  
 ・指標がない場合や指標を補足する必要がある場合には、指標によらない成果を用いて記載すること。

## IV 見直しの必要性(令和2年度に向けた改善等の考え方)

県関与の必要性	判定	<input checked="" type="checkbox"/> 必要性が高い	<input type="checkbox"/> 必要性がある程度認められる	<input type="checkbox"/> 必要性が低い
	説明	<input type="checkbox"/> 社会経済環境の変化により、当該事務事業が解決すべき課題が増えている、増えることが予想される <input type="checkbox"/> 事業の拡大や充実を求める意見・要望が増えている <input type="checkbox"/> 法令等により、県が実施することが義務づけられている <input type="checkbox"/> 県が実施しないと、県民生活に深刻な影響が生じる <input type="checkbox"/> 民間が実施した場合、現在のサービス水準を維持することが、収益性や技術面で困難である。 <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( )		
有効性(成果向上)	判定	<input type="checkbox"/> 大幅な成果向上が可能	<input checked="" type="checkbox"/> 成果向上が可能	<input type="checkbox"/> 成果向上はあまり望めない
	説明	本事業による調査結果をもとに次期鳥獣保護管理事業計画を策定することで、一層の保護を推進することができる。		
見直しの余地	判定	<input type="checkbox"/> 見直す余地がある	<input type="checkbox"/> 見直す余地がある程度ある	<input checked="" type="checkbox"/> 見直す余地がない
	説明	<input type="checkbox"/> 民間委託や指定管理者制度の活用など事業手法の見直しの余地がある <input type="checkbox"/> 業務の進め方や手続き(業務プロセス)を簡略化・簡素化する余地がある <input type="checkbox"/> サービスの対象、水準、内容を見直す余地がある <input type="checkbox"/> 実施体制(事業間・組織間の連携や事務分担など)を見直す余地がある <input type="checkbox"/> 投入したコストに見合った効果が現れておらず、効果向上やコスト削減を検討する余地がある <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( )		
その他	説明	第12次鳥獣保護管理事業計画にガン・カモ科の渡来状況の把握についての調査月、調査方法等が定められており、現時点では見直す余地がない。		
見直しの必要性	無	見直す余地がないため。		

## V 見直しの方向(令和2年度当初予算等での対応状況)

現行どおり	説明	
-------	----	--

・見直しの方向は、「廃止」「一部廃止」「終期設定」「休止」「他事業と統合」「縮小」「拡大」「実施方法等の変更」「改善済み」の中から選択し、IV見直しの必要性を踏まえ、具体的な実施計画等を分かりやすく記載すること。見直しがない場合は「現行どおり」と記載し、必要に応じてその理由を記載すること。